



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.50
2014年 9月号

公益財団法人
School Aid Japan

〒144-0043

東京都大田区羽田 1-1-3

TEL: 03-5737-2773

FAX: 03-5737-2793

<http://www.schoolaidjapan.or.jp>

sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

講習会の成果と水稲の課題

今年9月にカンボジアのお盆(プチュンバン)がありました。お盆の時は日本同様、都市部の人々は田舎に帰り、家族と過ごします。お盆の間にはお寺にお参りに行き、お坊さんにお供え物をあげ、お経を聞き、お寺の周りで遊ぶそうです。お寺の周りには露店も出ており、普段は静かな田舎もにぎやかになります。逆にプノンペンでは多くの人が田舎にいてしまうので、かなり静かになります。この時期にカンボジアに来られる際は、是非カンボジアの田舎の様子を見ていただければと思います。

今月は講習会と水稲について報告します。

① 講習会

今月は地元の農家さん9名の方に参加していただきました。9名という少ないように感じるかもしれませんが、実は今年度最多の人数です。農家さんは田植え・稲刈りの時期は作業が忙しく、他の時期は出稼ぎに行ってしまうので、なかなか参加者を増やせませんでした。しかしながら、今月は草を取りに農場に来ていた人に参加していただくことで、いつもより多くの人に参加していただきました。

今月はトラクターの運転について講習会を行いました。カンボジアでトラクターを持っている人はごく少数であり、カンボジアの男性は機械好きな人が多いので大変興味を持って講習会の話聞いていただけました。講習会の後には懇親会も行いました。懇親会の際に野菜を買ってくれないかという話をいただきました。講習会で紹介した野菜を販売するところまで出来れば地元の農家さんが野菜の栽培へ意欲を持つことができると思うので、今後はプノンペンにある日系の野菜流通業者さ

んと協力して取り組んでいけるようにしていこうと思います。

② 水稲について

2期作を行う水田では1期作目の稲刈り・脱穀・精米を実施しました。結果は籾の重量で合計237kg、1反当り47kgでした。昨年度が1反当り160kgだったので、昨年と比べ、かなり悪い結果となりました。



講習会の様子。今月は9名の農家さんに参加していただきました。



希望する方には実際に乗っていただきました。

この最大の要因として、今年は雨が少なかったことが挙げられます。講習会で農家さんに聞いても今年ほど雨が少ないのは珍しいとのこと、雨が少ないから田植えが遅れている地域も多々あるそうです。我々は2期作でやるため、田植えを遅らせると2期作目が乾季に入って出来なくなってしまう為、いつもどおりの時期に行いました。水が足りない分はポンプを使って揚水していたのですが、地下水位が低いため、水田に水が溜まりにくかったです。また、2つ目の原因としては肥料が少なかったことが挙げられます。今回は田植えの前に豚糞を施肥したのですが、購入した豚糞は発生するメタンガスを自家発電に使用していたため、発酵が進んでおり肥料分が少なくなっていました。2期作目では肥料分の多い鶏糞を使用して収量を増やせるようにしていきます。それから、稲刈り前にスズメに食べられてしまったことも原因です。1期作目の時期は周りに餌がないのでスズメがSAJ Farmの稲に多数やってきて、粃を食べてしまいます。天候やスズメの被害を考えると、2期作でやるには更なる工夫が必要だと感じます。

10月には2期作目の田植えを行います。2期作目は1期作目よりも水がある時期に栽培するので、今度は水没しないように気をつけながら水の管理をする必要があります。稲刈りは1月の予定です。1期作目が上手くいかなかった分、2期作目で出来るだけ取り返したいと思います。

今年度は2期作とは別に、1期作での栽培も行っています。1期作の水田は田植えの時期を遅らせたこともあり、今のところ順調に生育していると思います。今年度は更に試験的にこの水田に稚魚を入れ、養殖を開始しました。魚が水田の中を動くことで雑草を抑制し、糞をすることで稲の肥料になれば省力化が可能になります。また、稲刈り後に魚を捕って売ればお金にもなるので、上手くいけば非常に経済的な栽培方法になります。こちらの稲刈りも2期作目の稲刈りと同じ時期になりそうです。稲と魚がどれだけ大きくなるか、非常に楽しみです。



稲刈りの様子。真っ直ぐ植えたので、真っ直ぐ刈ることで作業が早くなります。



脱穀機。近くの農家さんのものを借りて脱穀します。



稚魚を養殖中の水田。稚魚を撮ろうと思ったのですが、小さくて発見できませんでした。

編集後記

最近、現地スタッフが頑張ってくれているので、10月にご褒美ということでプノンペンへ連れて行きます。スタッフの多くはプノンペンにいったことがないので、良い経験になるのではないかと考えています。また、SAJ Farmと関わって下さっている方々のところへ行き、SAJ Farmの取り組みを実感してもらうことも目的です。もちろん、昼には日本食レストランで農場のレモングラスで作ったレモングラスティと日本食を食べる予定です。農場は若いスタッフが多いので、将来、こういった仕事がしたいのかを考える良いきっかけになればと思います。

早藤